



あじろ
こどもエコクラブ活動（網代滝：水沢区黒石町）

事務局撮影

古着回収を視察しました

資源循環・廃棄物部会では、7月5日（土）に金ケ崎町で実施した古着回収を視察しました。

金ケ崎町では昨年に引き続き2回目の実施でしたが、ひっきりなしに古着が持ち込まれていました。

資源循環・廃棄物部会では、市と共催で古着リサイクルを実施することとし、今後、実施方法を検討していきます。



金ケ崎町の古着回収

古着リサイクル 実施します！

11月8日（土）環境フォーラムで回収します。品目等は後日お知らせします。



太陽光発電施設を見学しました

この見学会は、7月17日に実施したもので、当部会では今年度最初の事業となります。

計画は6月中旬に決めたもので、1か月にも満たない期間に定員20名をどの程度満たすことができるか不安でしたが、会員の皆様の積極的な参加を得まして、最終的に定員20名を満たすことができ、改めて皆様に感謝いたします。

最初の見学地は、一関にある企業の太陽光発電施設でした。この施設は、東京にある太陽光専門業者が一関市の市有地を借り上げて設置したもので、総事業費6億円を投じた大型施設です。設置場所は、旧東山町の石灰岩の採掘跡地の高台で、その高台には7,260枚ものパネルが整然と敷き詰められ、壮観な眺めでした。運営会社の方と市の担当者から発電システムの概要や発電出力、発電量など詳しく説明を受けました。



東山発電所

次の訪問地は、同じ一関にある市民発電施設です。この施設は、市民の資金でまた設置も市民の手で作り上げたという大変ユニークなものです。市民の募金は300万円ほど集まり、発電総出力12kw（通常家庭3軒分）ほどを発電しているとのことでした。関係の方々はこのユニークな施設を各地に広げたいと目を輝かせていました。



なのはなソーラー

最後の見学地は、奥州市前沢区の「万年の森」です。この広大な高台一帯は市有地となっており、市では昨年この市有地の一画を太陽光発電施設利用のために一般に貸付することを決めました。近い将来この高台にもパネルの壮大な波が見られることでしょう。

3か所の見学を終え、私たちの住む地域にも、自然エネルギーの動きが少しずつ着実に動き出していると感じました。私たち奥州ネットもこの自然エネルギーの動きに何か呼応できないものか考えさせられました。（生活環境部会 浪越 和彦）

北上川中流域復興支援ネットワーク「北上川河口域清掃・交流活動」に参加して

7月12日（土）例年行われている奥州・いわて NPO ネット主催の「北上川河口域清掃・交流活動」に参加してきました。総勢十数名。石巻市北上町で大川、吉浜小学校跡地で黙禱後、青ヶ島砂浜の清掃を実施しました。

水沢からバスに揺られて約3時間。北上川旧河口に見えたその地は、昔から変わらない自然の原風景のようで、役場、民家、小学校も流出し夏草が覆い尽くして復興道路、切崩した山の地肌が人の活動があることを示していました。むりやり元のようには復旧するのではなく元の元の自然の情景を残すのも選択肢としてあるのでは、と感じました。（小沢 宗）



おうしゅう環境フォーラム2014 みんな来てね！

『守ろう 残そう 子どもたちへ
先人のこころ 住み良いふるさと』
～一人のエコからみんなでエコへ～

日時：平成26年11月8日（土）
10:00～15:00

会場：水沢地区センター 体育館ほか

オープニングアトラクション

ブース展示・体験コーナー

エコ・アイデア発表・表彰

基調講演

振舞い汁

エネルギーから環境を考えると②・エネルギーの変換効率（PEF）

【大地】 前回の話で、二次エネルギーを節約する“節電”と一次エネルギー消費量を減らす“省エネ”は違うって言ってたけど、どうして一次エネルギーと二次エネルギーを分けて考えなきゃいけないんだろう。どちらも環境にやさしいエコな取り組みだと思っただけど、どう思う？ めぐみちゃん。

【めぐみ】 確かに大地くんの言うとおり、どちらもエコになるんだけど、どちらで考えるかによって、その効果の程度が大きく変わってくるのよ。どういうことかと言うと、発電所で一次エネルギーである化石燃料から二次エネルギーである電気に変換するときに、化石燃料が持っていたエネルギーは約 1/3 に減少してしまうの。だから例えば、100 kWh の一次エネルギーがあったとしても、それを発電所で電気に変換して家庭に送り届ける頃には、エネルギーは 37 kWh にまで小さくなっているというわけ。でもね、化石燃料を別の二次エネルギーである灯油や都市ガスなんかで使用する場合は、ほとんどロスがなく約 90kWh のエネルギーで家庭に届くから、灯油や都市ガスは電気よりも“省エネ”なのよ。もちろん、変換しないでエネルギーを利用することが最も省エネなので、太陽光を照明に、太陽熱を暖房や給湯に利用し、自然の風を冷房に利用することが省エネにはとても大事なの。“節電”は“省エネ”の様々な手法のうちの一つに過ぎないってことね。（工藤建設(株) 花澤 淳）



イノシシ軍団北上中、軍議を開け！

今、我が集落の夜の田んぼは街中のネオンサインなのか、はたまた飲食街看板なのかイルミネーション光がチカチカと光っています。そう、日本シカが増えすぎて田んぼの稲が食害です。その対策に電飾チカチカを設置しています。電源はソーラー、照明はLEDです。これでは蛍も出てこなくなりますよ。皆さんひとごとではありませんよ。

鳥獣害ですぐ想像されるのは、カラス、熊ですね。カラスはどこでも悪者、熊は街中にも出ます。害の実態を知らない方々は鳥獣処分の際のみ、可愛そうだ、山に返せばいい、保護対策はないのかとご意見。そういう人には、作物を作ってみて食害を受けてみてそれからといたい。

ここで考えられることは、農地の耕作放棄等により里山と農地の境がぼやけて来たこと、離農して空き家になり狸やハクビシンが棲みつく、温暖化によりシカの個体自然増（冬季に自然淘汰されない）、林業での生業がほとんどなくなり山に入らなくなったこと。ハンターは、年齢が高齢化により引退や更新制度のわずらわしさ等により減少。これらの環境や生態系がくずれたのでしょうか。

岩手県南では、イノシシ（衣川付近まで北上）が出没しているという情報があります。衣川の現在時点報告では田畑被害はないものの山ゆりの球根を牙で掘って食べているとのこと。それじゃ、イノシシを捕まえてぼたん鍋と考えていますか。とんでもありません。そのうちに畑作物を鋭い牙で芋でもかぼちゃでもジャンジャン食べまくりですよ。突進により危害もあります。

今後私たちは安心して作物を作ることができないのでしょうか。それともなにもかにも保護なのでしょうか？

さて、スイカ畑へ網をかけなくちゃ。ワナの免許取らなくちゃ。それともカラスと共存？無理でしょ。（環境学習部会 千田正典）



会員紹介

会員No.事-16 / 資源循環・廃棄物部会所属

『有限会社リサイクル伊藤』 高橋 理絵 さん

弊社は昭和22年創業以来、古紙全般をはじめ、空き缶やペットボトルなどの資源ごみをおもに取り扱っております。又、第二営業所（奥州・エコプラザ）では発泡スチロールの減容処理や蛍光灯の破碎処理を加え再生可能な資源の処理・運搬に努めております。

廃棄物部会による不法投棄現場清掃活動への参加、環境省が定めたエコアクション21に取り組む事により、自社廃棄物のリサイクルやエコドライブ（排ガス抑制）など全従業員一丸となって資源循環型社会への取り組みを行っております。

「捨てる前にもう一度、再利用できるか」を常に意識し活動を展開していきます。



牛乳パックプレス



ダンボールプレス

「六ヶ所再処理工場」についてどのぐらい御存じですか？

六ヶ所再処理工場は、青森県下北半島の細長い首の中ほどに位置する六ヶ所村にあります。以前、近くの横浜町の菜の花畑を見に行ったついでに、ビジターセンターを訪れたことがあります。案内嬢の説明は、何も不安はないと思わせました。今にして思えば、村内の公共施設はどれもピッカピカ。迷惑施設の常として、受け入れた村には当然多額の補助金が毎年交付されているのです。村民1人当たり年間100万円とも言われます。言いかえればそれほど危ない施設であるとも言えますね。

再処理の目的は、おおよけには高速増殖炉で使うプルトニウムを生産することです（ひそかに核武装のためとささやかれてもいるそうです。まさかとは思いますが・・・）。しかし、実際には高速増殖炉「もんじゅ」は失敗に次ぐ失敗で頓挫していますから、プルトニウムを生産する必要はないように思われます。ただ、現実問題として、多くの原発が敷地内に保管している使用済み核燃料が満杯のため、その引き受け場所として使われ、大量に貯蔵されています。

さて、放射性物質による汚染の問題です。まだ本格稼働にはいたっていないものの、たびたび試運転もしくは実験をしてしかも失敗をしているようで、多量の放射性物質が放出されてしまっていることが、再処理工場周辺を調査した公的データ（青森県・日本原燃・環境科学技術研究所・東北電力調査）によっても明らかになっています。しかも、福島原発事故でたまった海洋放出検討中の汚染水と比較しても、再処理工場からすでに排出した汚染水濃度は、比べ物にならないほど濃いのです。遠く離れた私たちには関係がない、では済まされない調査結果があり、愕然とさせられます。放出された汚染水は、遠く沖に向かって流れて行くのではなく、海岸線に沿って海流に乗って流れるということが分かったからです。六ヶ所村で流した葉書が房総半島の先まで届いています。

いかがですか？こんな恐ろしい施設。本格稼働になったらもっと大変なことが起こりますよ。1日も早くみんなで働きかけて止めさせましょう。

次にお金の話をします。再処理工場に必要経費は、最低で12兆2千億円、再処理によって得られるお金は9千億円程だそうですから、11兆3千億円の赤字です。それらの費用もすべて私たちが払う電気料金の中に巧みに隠され払わされているようです。

生活環境部会より（文責：中井 慶）

<今後の行事予定>

【運営会議】

- 9月 一関地球温暖化対策地域協議会視察
- 1月 環境保全活動団体交流会

【自然環境部会】

- 9月 自然景観調査（江刺区梁川方面）
- 10月 秋の自然観察会（江刺区 五輪峠）
- 11月 生物多様性学習会
- 1月 冬の自然観察会（衣川区）

【生活環境部会】

- 10月 松川地熱発電所視察

※内容、開催月はあくまで予定です。各行事の
詳細は、決まり次第随時お知らせします。

◇ つぶや記・あとが記 ◇

「まあ、驚いた！」というべきか「さもありません」と思うべきか。先日、関西電力の元副社長という91歳の男性が、マスコミに公表していましたね。田中角栄以降の歴代7人の総理大臣に、毎年2千万円を渡していたと。しかもすべてみんなから徴収する電気料金の中から出していたとか。他の電力会社も似たようなものなのでしょう。原発はあぶないと認識しながら流れを止めることができなかったとも告白していましたね。もっと早くに公表してくれたらと思いますが悲しきかなサラリーマンなのではないでしょうか。「死ぬ前に公表しなければと思った。中曽根さんにはもっとしゃべっておいてもらわないと」とは意味深い。（中井 慶）